

■ 学校の共通目標

<b>授業作り</b>	<b>重 点</b>	・ICT機器を効果的に活用し、基礎基本の定着と学び合う楽しさを味わわせる授業作りを行う。	<b>中 間 評 価</b>		<b>最 終 評 価</b>	
<b>環境作り</b>		・一人一人の良さが発揮でき、所属感を高める集団を育成する。				

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析 (10月)	課題 (10月)	改善のための取組 (10月)	最終評価 (2月)	
1	国語	学 学				
	算数	学 学				
学年	教科	学習状況の分析 (4月)	課題 (4月)	改善のための取組 (4月)	中間評価・追加する取組 (10月)	最終評価 (2月)
2	国語	学 ・9割の児童がノート丁寧に書き写すことができる。 ・およそ8割の児童が簡単な文章を書くことができる。 ・話をする前に意識を向けるための声かけをすることで、目を見て話を聞くことができる。	・学習感想で、自分の考えをまとめられるようにすることに関して指導が必要である。 ・主語、述語に気を付けて正しい文を書けるように指導する必要がある。 ・集中を持続して話を聞けるようにすることと、相手に伝わるように内容を考えて話せるようにすることについて指導が必要である。	・ノート等のマスをICT機器を用いてホワイトボードに映し出し、全体に見える形でノート指導をする。 ・短い文を繰り返し書く練習をする。また、書いた文章を読み返して確認する習慣を付けさせ、定着を図る。 ・話の聞き方のルールを徹底して、話の聞き方を身に付けさせる。		
	算数	学 ・文章題を読んで課題を把握して立式することが難しい児童が2割いる 学 ・たし算やひき算の学習内容について、概ね9割の児童が定着している。	・文章題の読み取りに課題のある児童に対する個別の支援が必要である。 ・繰り返し上がり、繰り返し下がりのある計算について指導の必要がある。	・具体物の操作をして問題解決に取り組む時間を設け、自分の考えをまとめる習慣を付ける。自分の考えを図や式、文章で表現できるように活動時間を確保する。 ・足し算、引き算の課題やデジタルドリルに繰り返し取り組み、計算力の向上を図る。		
3	国語	学 ・主語や述語に気をつけて文章を書くことができる。 ・基礎的な漢字の読み書きにおいて、課題が見られる。 調 ・新宿区学力定着度調査では、「読むこと」の領域の力が高いことが分かった。	・基礎的な漢字の読み書きを確実にする必要がある。 ・話し合い活動や振り返り活動を充実させ、より児童が主体的に学習をしていけるように指導する必要がある。	・小テストにより、前年度までの漢字の復習を行うとともに、漢字を用いて、日記や短作文を書く経験を積ませる。 ・自分の考えを書いてから、話し合い活動に臨んだり、授業の終わりに学習感想を書いたりするなどの機会を設定し、書くことに慣れさせる。 ・ブックトークや読み聞かせを行い、読書の幅を広げ、様々な言語表現に触れ、語彙を増やせるようにする。		
	算数	調 ・「数と計算」の領域においては、正答率が約8割であった。計算はできても、立式を苦手とする傾向がある。 ・「量と測定」の領域においては、区の平均正答率をやや下回っている問題がある。	・かけ算を確実に定着させ、正しく活用できるように指導する必要がある。 ・自分の考えを図や式、文章で表現していくことに慣れるよう指導する必要がある。	・授業の始めに、計算タイムを設定したり、タブレットを活用したりして習熟を図る。 ・文章題の題意を確かめ、自分の考えをノートやタブレットに図や式などで表す方法を指導し、毎時間、書いて経験を積ませる。 ・かさ、長さ、重さ、時間などについての算数的活動を充実させ、量を体感できるようにする。		
4	国語	調 ・新宿区学力定着度調査では、教科全体において、全国平均を上回っていることが分かった。特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が高かった。 学 ・書くことの学習に意欲的に取り組むことによって、分かりやすい文章を書くことができるようになってきた。	・正しい漢字を書くことや、日常的に漢字を使って文章を書くことについては課題が見られるため、継続的な指導が必要である。 ・文章の中心や構成に気を付けたり、言葉を選んだりして、相手に伝わるような分かりやすい文章を書くことについて指導の必要がある。 ・言葉の意味や文のつながりを考えて文章を読み取ったり、話を正確に聞き取ったりして、内容を理解することについて指導の必要がある。	・日頃の学習から漢字を正しく書く練習を行う。さらに、繰り返し漢字を練習したり、週1回小テストを活用したりし、正しい読み書きができるように指導する。 ・新出漢字の学習では、漢字辞典やタブレット端末を活用しながら語彙を調べて例文を書くことを常時行う。		

	算数	<p>調・新宿区学力定着度調査の「図形」の領域においては正答率が8割を超えていた。コンパスのような道具の扱いに慣れ、図形への理解が深まった。</p> <p>学・タブレット端末を活用し、自分の考えを説明することに慣れ、表現力が高まってきた。</p>	<p>考えたことについて、根拠をはっきりさせて図や式、文章などで分かりやすく表現することについて指導の必要がある。</p> <p>たし算・ひき算・かけ算の筆算、わり算などの基礎的な計算は速く正確に解答できるようになってきているが、苦手としている児童もいるため、引き続き定着を図っていく必要がある。</p>	<p>算数の学習では、既習学習の定着を図る。授業では、学習の終末で「振り返り」を行いながら、分かりやすい文章について繰り返し学習する。</p> <p>生活体験と算数を結び付ける学習を多く取り入れることで、学習内容の理解を助け、繰り返し復習することを通して、基本的な知識・理解の定着を図る。</p>		
5	国語	<p>調・「読むこと・書くこと」とともに正答率が目標値を大きく</p> <p>調・文章を書く力が全国平均を下回っている。</p> <p>学・内容の中心を明確にし、自分の考えを書くことに課題がある。</p>	<p>指定された長さで文章を書くこと、内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことについて指導の必要がある。</p>	<p>単元末に物語の感想、説明文の筆者の考えに対する自分の考えなど、書く指導を行う。事実や根拠と考えを分けて書けるよう指導していく。</p> <p>自分の書いたものを友達と交流する機会を多く設ける。ポイントを明確に示して、事実や根拠と考えを分けて書いている友達の文をモデルとして参考にできるようにしていく。</p>		
	算数	<p>調・新宿区学力定着度調査では、全体的に目標値を上回っている。</p> <p>調・「図形」領域では、平行四辺形等の作図に課題がある。</p>	<p>「図形」領域では、平行四辺形等の作図に関して課題が見られる。定規やコンパスなど道具の使い方を含めて指導の必要がある。</p> <p>自分の考えを文で書ける児童は多い。式や図などを用いて豊かに表現することについては十分とは言えず、この点について指導の必要がある。</p>	<p>プリントで作図の仕方など基礎・基本の定着を図る。</p> <p>豊かに表現できるようにするため、既習事項を生かして自分の考えをまとめていくなど、思考力を高める指導を行っていく。</p> <p>様々な表現方法を、授業で取りあげ、その表現のよさに気が付けるようにしていく。</p>		
6	国語	<p>学・話に関心をもって聞き、調べて発表する学習に意欲的である。</p> <p>重要な言葉や文にサイドラインを引きながら文章を読み、正確に読み取ることができるようになってきている。</p> <p>学校図書館を活用した調べ学習に取り組み、複数の資料から必要な情報を集め、比較、選択し、まとめることができるようになってきた。また、読書の範囲を広げることができ、すすんで読書に取り組んでいる。</p> <p>調・新宿区学力定着度調査では、全体的に全国および区平均を上回っていた。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「読むこと」の領域においては8割以上の平均正答率であった。</p>	<p>「話すこと・聞くこと」に関しては、最後まで話を聞き、自分の考えをまとめていくことに関して指導の必要がある。</p> <p>「書くこと」は、短い文章で答えることに関しては力が付いているが、自分の考えをまとめて文章校正を考え、表現することには課題がある。この点に関する指導が必要である。</p>	<p>授業だけでなく、毎日の朝の会や帰り会の時間に、交代でスピーチを行う機会を設け、関心をもって話を聞いたり、自分の考えを話したりする習慣を身に付けるようにする。</p> <p>授業の「めあて」に対する「まとめ」や「学習感想」に対して指導・助言を丁寧に行う。学習だけでなく行事も含め、年間を通して自分の考えを書く機会を多く設け指導を行う。</p>		
	算数	<p>学・数直線図を描いて考え、解き方を説明することに慣れ、正確に解答することができるようになった。</p> <p>昨年度より、学習のめあてから振り返りまでを意識したノートづくりを続けてきたことで、思考を整理する習慣が身に付いてきている。自分の考えを図で表したり、式や答えを導き出す過程を表現したりすることで、考えを整理し、説明する力も身に付いてきている。</p> <p>調・新宿区学力定着度調査では、基礎、活用ともに目標値を上回っている。</p>	<p>数や量の大きさや関係の理解が不十分であり、指導の必要がある。</p> <p>平行四辺形等の図形の作図が目標値を下回っている。定規やコンパスなど道具の使い方を含めて指導の必要がある。</p>	<p>デジタルドリルや練習プリントなどを活用し、反復練習を行う。</p> <p>意図的に作図の練習時間を設け、正確な作図について指導を行う。道具の使い方をもう一度確認し、正しく使って描けるように指導を徹底する。</p>		
音楽	<p>学・リズムの活動、鑑賞の学習に進んで取り組める児童が多い。鑑賞では、他の人の発言を基に、自分の考えをワークシートにまとめられる児童も増えてきている。</p>	<p>昨年度、ほとんど歌唱の授業ができなかったため、気持ちを含めて歌ったり、いい表情で歌ったりすることが課題である。</p>	<p>歌唱の活動を多く取り入れ、少人数で歌ったり、お互いに聴き合ったりする活動を取り入れながら、生き生きと歌えるように指導していく。</p>			
図工	<p>学・意欲的に学習に取り組める児童が多い。一部、常に指導者が個別指導をしないと怪我をしてしまったり、ねらいとは違う活動をしてしまったりする児童がいる。</p>	<p>造形遊びを十分に行うことができなかった。場や空間を生かしたり、友達と協力したりする経験が乏しいことが課題である。</p>	<p>密にならないように配慮し、色水遊びや、空間ワークショップなどの造形遊びの内容を取り入れる。</p>			
特支	<p>学・一斉指示で行動することが難しい。個別での支援を必要とする児童が多い。聞くとき、話すときの場面分けが難しい。手先の巧緻性が低く、学習用具をうまく使えず困っていることがある。</p>	<p>聞く話すのルール理解を身につけることが課題。</p> <p>発達のでこぼこに応じた支援を見つけ、本人に即した支援をしていく必要がある。</p>	<p>話す、聞くのルールを視覚化して提示する。</p> <p>担任と特別支援教育コーディネーターや、特別支援教室専門員が日頃から児童の様子や対応について共通理解をする。</p>			

調・新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学・授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況